



年頭にあたり

新年明けましておめでとうございます。2015年に「なかのドリーム」が法人化されて8年になりました。その間にも沢山のご支援を頂き、改めて心より御礼申し上げます。

定期的に理事会が開催され、様々な諸問題について活発に意見交換されています。当初からの最大の課題は職員確保についてです。特に障がい児者の介護経験のあるヘルパーがなかなか見つからず、常勤の負担が過大になってしまう現状をどう軽減するか必ず議題にあがります。全国的にも職員不足が問題となっており、マスコミでも取り上げられるようになりました。2022年は介護職から離職する人が働き始める人を上回る「離職超過」が、厚労省の調査開始以来、初めて起きたと報告されています。この傾向が続けば人手不足は一層深刻化し、支援の基盤がなくなる可能性が指摘されています。専門性が求められる人材をどう確保しどう育てるか、現場の工夫だけではもはや限界があります。来年度は障害福祉サービスの報酬改定があり、国の裁量が問われています。「重い障がいを持つ子どもと家族が安心して暮らせる地域社会の確立」という当法人の理念に何度も立ち返りながら、事業を継続できたらと職員一同考えています。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置付けが2類から5類に移行され、流行前の生活にもどりつつあります。しかし夏頃からはインフルエンザ、アデノウイルス感染症、溶連菌感染症など、ここ数年間少なかった感染症が小児を中心に流行しています。コロナ禍では感染症対策の徹底により抗体をもつ人が減ったためとマスクなどの着用が緩んだためと考えられています。介護現場では密になることが避けられないことや医療的ケア児が感染した時の重症化リスクなどより、利用者も職員も緊張を強いられます。なかのドリームでは今後もマニュアルに基づいた感染防止対策を継続していくことにご理解ください。

先日、代々木上原の東京ジャーミイを訪れると、モスク内で「子どもコーラン大会」が行われていました。コーランはイスラム教の聖典ですが、国籍に関係なくアラビア語で読誦されます。3~5歳くらいの子も達がコーランの一節を暗唱できたら、お菓子のご褒美がもらえる趣向で、二人のやさしそうなお兄さんが「どこからきたの」「何歳ですか」と英語やトルコ語、日本語などを駆使しながら暗唱をサポートします。中には何も答えられず、固まってしまう子もいました。その男の子は何を思ったか最後にペロッと自分のお腹を出して降板し、ちゃっかりお菓子をもらっていたのには思わず吹きだしてしまいました。この日の明るいモスク内には笑いが絶えず、「幸福」そのものでした。

一方、ガザの現状は、「凄惨」そのものです。パレスチナではイスラエルの不法占領による非人道的暴力が何十年も前から繰り返されてきました。今回のパレスチナ抵抗運動に対しての懲罰的無差別攻撃は常軌を逸しています。食料も電気も逃げ場もない状態にして病院、学校、避難キャンプなどを爆撃し、多くの民間人が殺戮され続けています。病院では電源がないために保育器が使えず、未熟児がベッドに無造作に並べられた光景は世紀末を連想しました。

居ても立っていられず、新宿で行われた「パレスチナ支援」集会に参加しました。約300人の多国籍の人々の中にはパレスチナ出身の方もいて、数千人以上の子ども達が亡くなっているガザの現状を涙ながらに訴えていました。その悲痛なコールの最中、真ん中の空間のポールのとっぺんに一羽のハトが止まるのを見て、あっと息が止まりました。一瞬のことで、眼を離れた次の瞬間には姿は見えませんでした。ハトは和解の象徴として、ユダヤ教の聖典である旧約聖書にもイスラム教のコーランにもノアの箱舟の伝説に登場します。どうかパレスチナの地まで飛んで行って、この悲痛な叫びを届けてほしいと切に思いました。

今年は良い年になりますように。本年もどうぞ宜しくお願いします。



理事長 高田功二



「あそびのむし」おもちゃのご寄贈ありがとうございました!

「東京おもちゃ美術館」と、「日本財団」の共同事業として、難病児向けおもちゃセット【あそびのむし】が生まれ、全国の施設や病院に届けられています。このたび、おでんくらぶにもご寄贈いただきました。中野区のおもちゃ屋さん、アプティさんも協力されており、あそびのむしの名前は子どもたちが通っている療育センター内のおもちゃ広場に由来しています。それぞれお気に入りのおもちゃを見つけて、みんな笑顔で楽しんでいます。



大きな箱4つのおもちゃ。わくわくドキドキしながら開けたよ!
オリジナルのおもちゃも入っていました。



おでんくらぶ事業報告



*登録者数: 34名 (児童発達支援 6名・放課後デイ 28名) 12月現在【中野区 19名 杉並区 11名 渋谷区 3名 千代田区 1名】

*月利用のべ人数と一日の平均利用人数、および利用率

9月	10月	11月
97人	107人	106人
4.8人	5.1人	5.3人
96%	102%	106%

(管理者: 福満美穂子)

訪問介護なべ事業報告



*利用者数: 20名
(うち介護保険利用者 5名)

*職員数:

管理者兼サービス提供責任者 1名・非常勤ヘルパー 18名 (12月現在)

(管理者 松田弥生)

クリスマスプレゼント!

みなさまからの寄付金で、ご利用者様へクリスマスプレゼントをお渡しいたしました。



ご寄付いただきました

東京善意銀行を通じて、株式会社メリーさまより、チョコレートのご寄付をおでんくらぶにいただきました。ありがとうございます。



賛助会費・寄付金のお願い

賛助会費 1口 3,000円
寄付金 1,000円~
賛助会費か寄付金か明記下さい

①【ゆうちょ銀行から振込】

[口座記号・番号]

00190-3-420254

同封の振込用紙をご利用下さい

②【他金融機関から振込】

ゆうちょ銀行

[店名・店番] 019 (ゼロイチキューウ)

[種 目] 当座

[口座番号] 0420254

[口座名] 特定非営利活動法人なかのドリーム

編集後記

なかのドリームは、2024年4月1日から設立10年目にはいります。法人の理念は、「みんなの笑顔と未来のために! なかのドリームは重い障がいのある人と家族が安心して暮らせる地域づくりをします」です。制度は子どもとおとなで分かれています。見も者も一貫して、かつ家族も含めて、安心して今住んでいる地域で暮らせるように、という理念は、医療的ケア児支援法にも通じています。支える側も支えられる側も、みんなが日々の生活の中で幸せなひと時を感じられるように、これからも初心を忘れることなく皆様とかわりあっていきたいと思っております。